



414  
A1115

131

明治十一年四月廿六日

平井壽昌

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄附

大久保内務卿  
大隈大藏卿

土山大藏少輔官

東京タイムズ新聞の助成之儀是迄一個年(新聞助成  
六千円郵便料五百円六千五百圓)本年三月迄資  
給可相成等之處該新聞配達之數七更増加及び  
度紙子紙ノ通ハウス申立右者該新聞ノ所説外國

於頗感格と生一多少の國の榮譽と信ひた依  
其相違おた追々條約改正に時に際し必要  
器具を被存此際右配達方一層相増し其す至  
極し便宜と可省之且是追毎週一及出版を此  
後八更と毎日出板不致し及存意と省し趣付与  
ち配達方も隨一層頻繁致させ依自然好  
都合と省し仍し自今郵便料増印刷料と合算  
一個年一千円助成を従前通六千円都合七千円  
増給し期限は依て更に一十年と延一即千十三年  
三月と之被相定且契約書調印は依是追の如し

各官員の姓名亦記載有之其わ一旦不慮事故  
遇ひ萬一人目に觸るれば政府の關係或は露  
不穩し場合も可有之也急念不少其付今回改約  
及び三井銀行取締役三野村某と依て依て約主  
相立し証名捺印及び金円渡方し手續は先例  
照準し可然此照相同也

新約條書案端末に附載仕也

ハウス来稿ニ譯文

西シ金曜日ニ来航セシ米國郵船ニテ英米兩國ヨリノ郵書到  
来ノ処我カ東京タイムス新聞ヲ海外ノ各國へ送達センタノニ生  
出セシ吉兆ノ好報ヲ得タリソハ米國下院ニテ有カナルペンシル  
ウエニヤ州ノギヨウジケルレイ氏ハ我カ新紙ノ説ク所ヲ以テ日本亦  
國交際事務ノ指南針トナスヘキ由ヲ言ヒ又カレイ氏ハ彼ノ  
東洋事件ノ新論ノタノニモ我カ新紙ヲ採用シバンクス氏  
レイン氏共ニ米國有名ノ新聞<sup>記者</sup>モ亦予カ一友ノ中介ヲ以テ前ト  
全シキ説話ヲ傳ヘタリニウヨルク州カリフォルニヤ州ノ新聞<sup>記者</sup>ハ其  
説ク所日本ニ関スルコト多カラスト金モ我カ新紙ヲ以テ其ノ説  
ノ根柢トナセルコト明カニシテ<sup>ライオン</sup>新英國ノ新聞紙ハ我カ説ト全  
該ナルコト判然タリ又龍動府ニ在ル旧友則チヌヘクテトル新  
聞紙ノ頼件ヨリ私密ノ報知ニ拠レハ全新聞モ亦我カ新聞

紙ヲ以テ其記載スヘキ基体トナシテ許シボウルモウルガゼツト新聞亦タ之ニ全シ概スルニ英國諸新聞ノ近來大ニ其ノ所説ヲ変シ東京タイムスノ所説ヲ援証スルノ多キハ定メテ貴下ノ覺知ヲ經タル処ナラント思惟スル処ナリ而シテ前日在英貴國公使館ノ一人ヨリ書ヲ予ニ投シテ前説ノ虚ナラララ予ニ告ケ且ツ曰ク上野君ハ此儀ヲ貴國ニ申シ送ラルヘシト又タ華盛頓府ニ在ル吉田君ノ書意モ概畧之ト異ナルコトナシ

凡ソ前ニ説ク所ノ数條ハ皆ト貴下等ト我輩ノ幸ヒナラサルハナシ尤モ予ハ新聞社會ノ慣手ニテ久シク英米ニ於テ之ヲ業トナシタル故予カ一身ニ於テハ別ニ珍事トスルニ足ラストモ此ニ説ク所ノ一事ニ於テハ曾テ七八年來専カ盡カセシ事日本ノ進歩ニ及カシテ進歩ノ預徴タルヘキカ故ニ為ニ欣然タラカルラ

得ス

予ハ前ニ説ク所ノ報ヲ得テヨリ後々忽チ一ノ考案ノ胸裡ニ浮動シ来ルアリソハ新聞ノ印刷ヲ増シ海外配達ノ数ヲ多クシ以テ後來ノ成績ヲシテ一層大ナラシメントスルニ在リ凡ソ印刷ノ費ノ大ナルモノハ種字ノ工夫ニシテ紙價ノ如キハ僅々ニ属セリ今マ文字ハ常例印刷ノタメニ既ニ極テ了ラ版上ニ在リ唯紙價ト配達料ノミヲ以テ海外配達ノ数ヲ増スラ得ヘシ而シテ配達料ノ幾分ハ直チニ政府ニ回ヘルモノナリ然レハ消費スル処タカラスシテ其結果ハ必ラス大ナラン貴下モシテヒニ予ノ説ク処ヲ察テス大隈閣下ニ轉禀シテ其乞テ許シ玉ハ、独リ予カ大慶ノミナラス貴國ニ於テモ益スル所少カラカラントス拜具

イエツキハウス

# 新約條案

明治九年十月十五日ニ調印セラレタル每週新聞發刊ノタメニイユツチハウス氏ト契約ノ條款ヲ新タニシ其ノ配達之數ヲ増シ更ニ年限ヲ寛クセシカ為メ三井銀行ノ取締役三野村利助氏ハ茲ニ其條款ヲ潤列スル事左ノ如シ

## 第一款

一原約ノ期限ハ明治十二年三月ニ至ツテ終ルト  
魚モ今マ猶十二個月ヲ加ヘ明治十三年三月ニ至ルマテ原約ヲ照ラシ助成金トシテ毎日貿易

銀五百圓充テ給スルコト従前ト異ナラザルヘシ

第二款

一 イエツチハウス氏ハ其出版スル毎号新聞五百部宛代價ヲ要スルナク三野村氏ヨリ指名ノ受取人ニ之ヲ送ルヘシ三野村氏モシ此ノ五百部ノ内若干部ヲ海外諸國要路ノ人ニ送送スルヲ欲セハハウス氏ハ来ル七月ヨリ始メ毎年銀貨一千圓宛ノ郵便料ヲ得テ務メテ之ヲ多数ニ郵贈シ其餘分アラハ之ヲ三野村氏ノ意ニ任カス

ヘシ

第三款

一 此條約書第二款ニ掲ケシ手順ヲ以テ該新聞ノ郵贈ヲ受クヘキ筈ノ人ヨリ自家ニ収買ヲ好ムアラハ新聞局ハ別ニ夫レ丈ノ部教ヲ代價ヲ要セス某氏ニ交付スヘシ

第四款

一 該新聞ニ記載セララル、日本関係ノ諸説諸意見ノ類ハ「ハウス」氏識見ノ及フ丈ケハ常ニ我國ノ裨益ヲ考ヘ眞実公正ニシテ偏頗ナキ物ナル可

シ又タ三野村氏ヨリ特殊ニ記載ヲ要スル件ハ  
ハウス氏遲滞ナク刊行スヘシ

第五款

一若シハウス氏長病ニ罹リ此ノ約書ニ載明シタ  
ル新聞紙編集ノ業ヲ止息セルコト連續一百二  
十日ヲ越ヘ且ツ代人ヲ僱用スルニ至ラハ此ノ  
約書ニ載セタル助成金ハ某氏ノ擇ム所ニ任セ  
資給ヲ停止セララル、モ可ナリトス

第六款

一若シ此約書期限内ニハウス氏死亡スルコトア

ラハ前ニ記シタル助成金ハ其死亡セル月ノ終  
リマテヲ限リトシテ停給セララルヘキ事

第七款

一ハウス氏此後新聞紙業ヲ他賣スルカ又ハ他ノ  
情由ニ因ルトモ前文同氏へ給スル助成金ヲ受  
領スルノ權利ハ何人ニ因ラス讓與スルヲ得サ  
ル事

第八款

一時日ヲ茲ニ預<sup>期</sup>セスト至モ此後毎日發刊スルノ  
時ニ至ラハハウス氏ハ其五百部ヲ三野村氏指

名ノ受取人ニ送り又夕三野村氏ノ望ニ忘レ海  
外各国へ郵送スルコト此約書第一款ニ述ヘタ  
ル如クスヘシ

第九款

一此ノ約書ノ條款ヲハウス氏承諾セシ趣ヲ全氏  
手書ヲ以テ申明スル時ニ至ツテ此約書ハ寶刀  
ヲ有セル物ト判定セラレヘキ事

明治十一年 月 日

三野村利助 印  
ハウス氏 記名

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄

明治十一年六月廿四日

寺島重蔵

平井秋書官

大隈重蔵

土山大蔵少書記官

東京タイムズ新聞助成延期改約案本年四月  
月一五印取極め成案及尚又加添或は删除  
と經其大綱於るを舊案ト異なり得得其字  
句之間或は行文ノ俾裁於るを之ヲ研精或は加  
改良成案なる是より双方調印を致す



尤調印月日之候々本文中月数金額等  
同案ノ通、据並同、仍、六月百新約施乃  
之旨、以申之、其以前調印相済、其事、  
是作、其候、其請者、其付、其置、其事、  
尚以印刷郵送料増額五百円支給、依、  
年宵中、以決議、其後、其支、其出、其候、  
從前、以通、一年、四季、其定、其、其、  
後、其、其、其、其、其、其、其、  
不紙約書案、其相省、其、其、

此約書ハ明治十壹年六月一日乃千千八百七十八年  
六月一日ニ於テ甲乙兩約者ノ間ニ成レリ甲ハ現今  
東京築地外國人居留地三十三号地ニ於テ發刊スル  
東京タイムス一週新聞ノ記者タルイーエツチハウス  
トシ乙ハ東京三井銀行ノ副長三野村利助トシ是ナ  
リ  
前ニ述ハタル甲乙兩約者ハ甲約者カ築地外國人居  
留地ニ於テ刊行スルトウキヨウタイムス新聞ノ發  
刊ヲ盛大ニシ又タ此新聞ノ外別ニ期限ヲ預期セス  
甲約者ヲシテ一ノ毎日新聞ノ業ヲ起サシメハ双方

ノ利益ヲ増進スルニ足ラレト思惟セリ  
上件ノ次第ニ因リ乙約者ヨリ銀貨五千圓額ヲ十箇  
月賦其第一月賦ハ此約書調印ノ日或ハ其以前ニ其  
最終ノ月賦ハ明治十二年乃チ千八百七十九年三月  
一日ニ於テ甲約者ニ賠補スルニ因リ且ツ乙約者ヨ  
リ尙方又銀貨六千圓額ヲ追加助成トシテ十二箇月  
賦第一月賦ハ明治十二年乃チ千八百七十九年七月  
一日ニ最終月賦ハ明治十三年乃チ千八百八十年六  
月一日ニ於テ甲約者ニ賠補スルニ因リ甲約者ハ明  
治十一年乃チ千八百七十八年六月一日ヨリ始メニ

十三個月ノ間連月築地居留地又ハ前港場タル横濱  
港兩地ノ内ニ於テ其都合ニ任セトウキヨウタイム  
スト号スル一週新聞ヲ絡譯編輯刊行ノコトヲ乙約  
者其嗣子其掌管者及ヒ其代理人等ニ相約シ相許諾  
スル趣況左ニ述ルカ如シ

第一款

甲約者ハ東京築地外國人居留地ニ於テ「トウキヨウ  
タイム」スト号スル每週新聞ヲ其發刊ノ度毎ニ五百  
部宛テ代價ヲ要セス誰ニテモ乙約者カ命スル所ノ  
受取人ニ付與スヘシ若シ乙約者ニ於テ五百部ノ内

若千部ヲ海外各國又ハ内國要路ノ人ニ進贈セント  
欲セハ甲約者ハ乙約者ヨリ毎年銀貨五百圓ノ郵更  
料ヲ得テ其金額ヲ以テ郵送セラルヘキタケハ務メ  
メテ多数ニ進送スル事ヲ担当スヘシ若シ此五百部  
ノ内郵送ノ餘分アラハ之ヲ乙約者ノ存意ニ任カス  
ヘシ又タ甲約者ハ該新聞ノ送り先地名人名録ヲ乙  
約者ノ指名スル人々或ハ人々ニ送付スヘシ

#### 第二款

日本或ハ海外ニ在テ「トウキョウタイムス」新聞ノ郵  
送ヲ受クヘキ人々ヨリ自家ニ買閱ヲ好ムアラハ夫

タケノ部数ヲ代價ヲ要セス乙約者ニ増付スヘシ

#### 第三款

乙約者カ「トウキョウタイムス」新聞中ニ特殊記載ヲ  
要シ自身又ハ其命スル代人ヨリ口演又ハ書取リニ  
テ通知スル諸説ハ甲約者進退ナク該新聞上ニ發刊  
スヘシ

#### 第四款

該新聞ニ記載セラル、日本関係ノ諸説諸意見ノ類  
ハ甲約者ノ識見ノ及フ文ケ且ハ其信用ノ當ヲ得ル  
涯リハ眞實公正ニシテ偏頗ナキモノナルヘシ而シ

テ甲約者ハ常ニ復ラク當國天皇陛下及ヒ其從民ノ  
利益ヲ考ヘ慮カルヘシ

第五款

甲約者モシ長病ニ罹リ「トウキヨウタイム」新聞ノ  
編輯長タル職務ヲ自カラ行フヲ得サルコト連續ニ  
百二十日ヲ越ヘタル時ハ此約書ノ明文ニ隨ヒ給與  
サルヘキ助成金ノ其後ノ拂渡ハ乙約者ノ存意ニ任  
カセ全ク停止セララルヘキモノトス

第六款

此約書調印ヨリ後キ二十五個月以内ニ甲約者モシ

死亡スル事アラハ前文全人ヘ許可サレタル助成金  
ノ拂渡ハ甲約者ノ死亡シタル月ノ終ニ至ツテ停止  
スヘシ

第七款

甲約者ニ於テ「トウキヨウタイム」新聞ヲ賣却スル  
カ又ハ他ノ方法ヲ以テスルトモ前文乙約者ヨリ拂  
ヒ渡ス助成金ヲ受領スルノ權利ハ何人ヲ論スルナ  
ク他人ヘ讓與スルヲ得サル事

第八款

明治十二年乃チ千八百七十九年三月一日又ハ其以

前ニ甲約者ハ自己ノ費額ヲ用ヒ自己ニ危険ヲ担保  
シ適當ナル編輯補助者ヲ僱使スヘシ而シテ全人即  
チ甲約者ハ此約書ノ期限内其適宜ト判定スル方法  
ニ依テ該編輯補助者ヲ使用スルヲ得ヘシ

第九款

甲約者ニ於テ前ニ云ヘル毎日新聞ノ營業行ハルヘ  
キモノト思考スル時ハ此約書ノ期限内該毎日新聞  
ヲ每板四部ツ、無代ニテ乙約者ヘ送給スヘシ

第十款

甲約者若シ「トウキョウタイムス」新聞又ハ此後発行

スヘキ新聞紙ノ業ヲ約定満期ノ後ニ連続スル事其  
利益ヲ生スヘキモノト思考スル片ハ其タノ乙約者  
ニ助成金ヲ請求スルコトナカルヘシ併ラ乙約者カ  
明治十三年乃チ千八百八十年六月一日ニ至ルマテ  
助成金額ヲ給與シタル事ヲ思念シ且ハ此約書ノ明  
文ニ從ヒ甲約者ハ此後天皇陛下ノ領地内ニ於テ出  
版編輯刊行スル諸新聞中ニ於テ須ラノ日本國天皇  
陛下及ヒ臣民ノ利益ヲ増進セシメテ常ニ注意スヘ  
キヲ茲ニ約定ス

第十一款

萬一甲約者前ニ記シタル編輯補助者ヲ僱入叶ハサ  
ル時ハ前条追加助成ノ銀貨六千圓ノ拂渡ヲ乙約者  
ニ向ツテ請求スルヲ加ルヘク又タ此約書ハ明治  
十二年乃チ千八百七十九年七月一日ニ於テ終止ニ  
至ルヘシ併ラ前ニ記載セシ如ク補助者ヲ僱入<sup>得</sup>タル  
時ハ乙約者ハ追加助成銀貨六千圓ヲ前ニ述ヘタル  
如ク甲約者ニ拂渡シ此約書モ明治十三年七月一日  
ニ至ルマテ十分ノ效力アルヘシ而シテ乙約者ノ營  
業上乃チ乙約者カ副長タル三井銀行ノ商賣上ノ危  
險ニ對シテ甲約者保安ノタメ兩約者カ約定シタル

趣左ノ如シ

此約書調印ノ時又ハ其以前ニ日本帝國通用ノ銀貨  
一萬零五百圓額ヲ二分シ其一部分ハ四千五百圓他ノ  
一部分ハ六千圓ヲ特別ナル預ケ金トナシ之ヲ三井  
銀行ノ橫濱支店ニ預ケ置クヘシ斯ノ如ク預ケ置タル  
金員ハ三井銀行又ハ三井銀行支店ノ商賣ヲ經營ス  
ヘキ資本ノ一部トナスヘカラサル特別ノ預金タリ  
而シテ此由ヲ以テ該銀行ノ賬簿ニ記載セラルヘシ  
此預ケ金員ハ此約書ノ記文ニ從ヒ甲約者ヘ終期ノ  
拂渡ヲナシタル時ニ至ルマテ在橫濱三井銀行支店

ニ預ケ置クヘシ而シテ該銀行支店ノ取締ハ該金員  
預ケ濟ミヲ証スル收證ヲ此約書調印ノ時又ハ其以  
前ニ此約書ノ裏面ニ記入スヘシ然シナカラ此約書  
ニ從ヒ甲約者ニ拂入ル金員ハ幾許ナリトモ甲約者  
ヨリ書面ノ要求ニ因リ該預ケ金ノ内ヨリ引出シテ  
約者ニ付與スルハ適當ノ事ナリトス斯ノ如ク引出  
シタル金員ハ速ニ甲約者ニ付與シ甲約者ハ其收證  
ヲ此約書ノ裏面ニ記入スヘシ  
前陳ノ條件ヲ證明セシタメ起初二注明セシ年月日  
ニ於テ我輩之レニ記名調印スルモノナリ